



〔ご挨拶〕

50年を迎えて

一般財団法人日本医薬情報センター

会長 村上 貴久

久保文苗先生を初代理事長に迎え、日本医薬情報センター（JAPIC）が財団法人として発足してから50年となりました。任意団体の日本医薬情報センター（所長 久保文苗）としての期間を含めると52年になります。

JAPIC 創立に先立って、日本製薬工業協会では、医薬品の安全性に関する薬学・医学関連の情報収集及び利用の推進を図ることが重要との認識に立って、特別準備委員会を立ち上げ、検討され、「日本医薬情報センター（JAPIC）設立具体案」を作成しておりました。

この設立具体案に記された JAPIC の果たすべき役割は、医薬品関連資料の収集・整理・保管・提供等のライブラリー業務、情報の評価・分析・加工処理・蓄積等のドキュメンテーション業務、資料の交換・提供の仲介等のクリアリングハウス業務などと示されております。また、設立の意義としては、各社単独で行った場合の情報収集業務の重複を避け、各社は JAPIC のデータベースを活用することにより効率化が図れると指摘されております。

50年間の JAPIC の歩みを顧みますと、当初の設立具体案に示されたビジョンに従い、着実かつ誠実に業務を続けていくことができたのではないかと考えております。

その一方、この50年間の情報通信技術の進歩は激しいものでありました。

JAPIC 発足当時の情報提供形態は紙媒体が主で、FAX の活用などが試みられておりましたが、即時性は達成が難しく、FAX の伝送容量は限られていました。その後利用可能になったインターネットも、当初は文字列だけの通信で伝送速度も遅いものでした。

今日、資料を電子情報として蓄積することが容易となり、クラウドの利用が普及し、インターネット経由の情報伝送は毎秒ギガバイトレベルの達成も容易となっています。このような環境の変化により JAPIC の情報提供の形態も変化してきました。

また、近年のコロナウイルス感染症の蔓延により、在宅勤務が定着し、クライアント各社の求める情報提供形態も変化しております。

JAPIC といたしましては、今後とも技術革新に迅速に対応し、クライアント各社のご要望に真摯に応じて事業を続けていきたいと考えております。

引き続きのご指導ご鞭撻をお願いいたします。